

.....

.....

.....

1

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[33]歳、 勤続年数[15]年、 現場経験年数[15] 年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [車長]
○当事者 B	年齢[30]歳、 勤続年数[8]年、 現場経験年数[8]年、 階級[消防士]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [隊員]
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A	排水管内から脱出不能の猫を、隊員 B と協力して棒を使って出口付近まで誘導する。	
経過 2	A	手が届く所まで猫が移動したため、手を差し伸べる。	
経過 3	猫	それまでは、衰弱している様子だった猫が突然暴れ出し隊員 A に飛びかかる。	
経過 4	B	A の後方にいた B が、猫を捕まえようとして、猫に左手人差し指を噛まれる。	
経過 5			
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

● ●

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。個人装備が不適切だった。その他：動物の行動特性を理解していなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	はい
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：動物の行動特性を理解していなかった。

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

動物を扱う場合、こちらの意志は全く通じないことや、突然暴れ出すことを予測（注意）した行動を徹底する。

○装備・資機材の対策について

特に対策は実施していない。
本事例の場合の個人装備は、防火衣・保安帽・ゴーグル・ケブラー手袋で活動を実施する。

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

動物を救出する場合、動物の行動特性を十分に把握すること。
消防の任務の特性から、「救出」となると必然的に確保することに視点が置かれるため、動物の場合は「捕獲」することより、「解放」することに視点を置き、対象動物の突発的な行動を予測し、自身の安全を確保した活動を行うことを徹底した。

